臨床発達心理士会　千葉支部

News Letter ちば

2011年8月10日　第5巻1号　　発行元：臨床発達心理士会千葉支部

目次

1．巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2．2011年度 第2回研修会のお知らせ ・・1-2
3．2011年度 第1回研修会報告 ・・・・・2-3
4．総会報告・・・・・・・・・・・・・・・4-5
5．地域情報交換会の報告とお知らせ・・・・5
6．私の職場紹介・・・・・・・・・・・・・5
7．各支部の研修会案内・・・・・・・・・・6
8．事務局だより・・・・・・・・・・・・・6
＜資料1＞会計報告　＜資料2＞予算報告

1．巻頭言

「専門職としてのあり方と他職種との連携」

成田市健康こども部健康増進課　　齊藤　順子

最近、他職種の方々と連携を取り情報交換を行う機会がありました。

これまでの臨床経験の中でも「他職種との連携」ということばを何度も耳にする機会があり、連携を図ってきたつもりでした。ところが、「他職種との連携とは何でしょう？」と改めて考えさせられる場面に遭遇しました。本来であれば、資格のある職種がそれぞれの専門性を活かし、相談者と向き合い、まず傾聴を行い、その後支援の在り方について関わった職種が検討を行う必要性があります。また行わなければならないと思います。

しかし、職場により、どの職種が中心になり、展開していくかについても職種間の連携が課題になるのではないでしょうか。また、職種間によっては、関わり方の区切りがはっきりしている訳ではなく、オーバーラップしていることもあります。各職種の良さを活かし連携を図ることで、その後の支援策を講じることが良くも悪くもなります。日々研修を積み重ね、質の向上を図り驕ることなく向き合う気持ちを基盤に持ち合わせる姿勢が大切であると考えております。何年臨床を重ねていても携わる人や場所が変わることで対応も変化し、変えなければならない現状の難しさに悪戦苦闘の日々です。

実際の現場では一人で対応している方や専門職が整っている現場もあると思います。専門職が整っている職場では連携の在り方について、一人職場の方は連携を取ることの難しさについて等いろいろな問題に直面しながら日々業務に取り組んでいると思います。また、痛切に感じることがあるのではないでしょうか。

個々に臨床発達心理士としてだけではなく、他職種との連携を図りながら支援を行うことで、より良い対応が出来るのではないかと思います。一個人のケースを資格で対応する訳ではありませんが、実際どのように関わるかが課題になります。今後も初心を忘れずに日々業務に関わることを心掛けたいと思います。

＜2011年度千葉支部第2回研修会　公開研修会＞

日時：2011年10月23日（日）9:30～16:30　（受付開始　9:00～）
会場：千葉大学西千葉キャンパス（教育学部　大会議室にて受付）
ＪＲ西千葉駅より徒歩８分、京成みどり台駅より徒歩７分、
◎必ず正門よりお入りください。正門から入って左に曲がり、道なりに進みます。
付属小（その道の左側にあります）の道を挟んで右側の建物です。
学内への車の乗り入れはできません。
主催：日本臨床発達心理士会千葉支部

＜午前の部＞9:30～12:30　専門研修（受付開始　9：00～）
○テーマ：「乳幼児期の認知発達と発達障害」
○講　師：中澤　潤（千葉大学教育学部教授）

＜午後の部＞13:30～16:30　公開研修会（受付開始　13：00～）
○テーマ：「災害時・非常時における支援者の役割と有効な支援について」
東日本大震災・日本臨床発達心理士会の支援活動について
千葉県内の被災地における支援の状況について
○講　師：前川あさ美(東京女子大学現代教養学部人間科学科教授)
―ポイント：午前・午後各1ポイント、参加費2000円(午前・午後各1000円)―

２．2011 年度千葉支部第 2 回研修会のお知らせ

○**日時**：10 月 23 日（日）9:30～16:30
○**会場**：千葉大学西千葉キャンパス
（教育学部　大会議室にて受付）

＜午前の部：専門研修＞

○**日時**：10 月 23 日（日）9:30～12:30
9：00～受付（場所：教育学部大会議室）
○**テーマ**：「乳幼児期の認知発達と発達障害」
○**講師**：中澤潤（千葉大学教育学部教授）
○**概要**：

発達心理学、特に認知発達の領域は近年急速に大きな変化を迎えています。その動きは、進化的視点と文化的視点の発展、またそれらの統合です。進化的視点とは、人を進化の流れの中でとらえ、子どもの発達的な特性を進化における適応という視点から解釈するという立場です。文化的視点とは、人を取り巻く文化という枠組みが、子どもの発達に影響するという視点です。これらは、人が、社会的動物として他者と交流しながら認知を発達させていく存在であり、孤独な学習者ではないということを示しています。

近年の乳児研究における、馴化ー脱馴化法などの研究手法の発展は、音韻認知、顔の認知、物理的空間の認知、意図の認知などさまざまな側面で乳児が優れた認知能力、特に社会的な認知能力を持つことを示しています。また幼児研究における表象理解、心の理解、実行機能研究は、乳児期に見られた認知機能を基に表象が発達し、現実とは異なる仮想の問題にも次第に的確に答えることができるようになることを示しています。同時に幼児期の認知発達の不十分さに基づく楽観性は意欲を支える進化的意味を持っています。これら諸研究を紹介し、社会的存在としての人の持つ進化的特性と文化的調整についてお話しします。また、発達精神病理学の視点について、縦断研究の重要性と、発達における因果解釈の困難さ、レジリエンス、リスク要因、媒介要因、調整要因を基に紹介します。

続いて、発達障害と認知の障害について、被虐待児や自閉症児を基に論じていきます。被虐待児については、泣き声や表情の認知のゆがみ、ルーマニア剥奪事例を、自閉症児については、視線認知、心の理論、実行機能を取り上げます。もちろん、認知的側面から見た発達障害は、子どもの理解の一つの側面に過ぎず、介入・援助アプローチには総合的な理解が必要になることは言うまでもありません。

中澤潤（千葉大学）

○**ポイント**： 1 ポイント
ID カード、参加記録ノートを必ずご持参ください。
○**参加費**：1000 円　当日会場でいただきます。
○**参加申し込み**：午前の部は申し込みの必要はありません。

＜午後の部：公開研修会＞

○**日時**：10 月 23 日（日）13:30～16:30
13：00～13：30受付（場所：教育学部大会議室）
13：30～16：30 公開研修会
○**テーマ**：「災害時・非常時における支援者の役割と有効な支援について」
○**講師**:前川あさ美(東京女子大学現代教養学部人間科学科教授)
○**コメンテーター**：長崎勤（筑波大学人間総合科学研究科教授）
○**概要**：

3月11日に発生した東日本大震災は東北地方を中心に多くの尊い生命を奪い、広い地域にわたっていまだに生活を脅かし、千葉県においても大きな被害を及ぼしています。

私たちは、家庭、組織、地域を越えた協力と支援によってこの事態を乗り越えていかなければなりません。「人の健やかな育ちを支援する専門家」の団体として、日本臨床発達心理士会では震災の直後から支援の活動を行ってきています。

災害時･非常時におけるトラウマ･ＰＴＳＤなど、「心のＳＯＳ」をだしている子どもや大人を支援者はどう理解し支援を進めればよいのか。果たすべき役割、支援の具体的な方法とは。

この分野の研究の第一人者･前川あさ美氏(東京女子大学)の講演を中心に研修をすすめ､千葉県内の被災地における支援の状況についてのレポートも行います（千葉支部松浦俊弥：千葉県立冨里特別支援学校）。今後の多方面での支援に生かしていく機会としたいと考えます。

○**ポイント**： 1ポイント
ID カード､参加記録ノートを必ずご持参ください。
○**参加費**： 1000 円　当日会場でいただきます。
○**参加申し込み**：公開研修会(午後の部)については下記事務局まで、Ｅメール、ファックス、葉書のいずれかで申し込んで下さい。午前の部は申し込みの必要ありません。10月10日までに申し込んでください。定員になり次第締め切らせていただきます。

〒276-0022 八千代市上高野 1214-3　中村方
日本臨床発達心理士会千葉支部事務局
(FAX) 047-482-6015
(Eメール)　nshin@otsuka-s.tsukuba.ac.jp

３．2010 年度第 1 回研修会報告

○**日時**：2011 年 5 月 29 日（日）9：00～ 17：00
○**会場**：千葉大学西千葉キャンパス

＜午前の部：共通研修＞

○**日時**：5 月 29 日（日）9:30～12:30
○**テーマ**:「家族の立場からの発達障害者の地域支援の現状と課題－発達障害者支援法・障害者自立支援法改正の経緯をふまえて－」
○**講師**：氏田　照子（日本発達障害ネットワーク副会長、内閣府・障がい者制度改革推進会議委員、元神奈川県自閉症児者親の会連合会会長）

○概要：

氏田氏は、自閉症の青年の母としての立場から教育・自立に向け５ヵ所のグループホームを運営する傍ら神奈川県自閉症児者親の会の活動にも大きく貢献してきた。2004 年、当事者団体とそれをサポートする専門団体（正会員 18 団体、エリア会員 48 団体）からなる日本発達障害ネットワーク（JDD ネット）を設立し、同年超党派の議員連盟とともに発達障害者支援法、障害者自立支援法の改正に携わる障がい者制度改革推進会議の委員を務めるなど、広く国内外で活動するまさに“スーパーお母さん”である。

長崎支部長から、当事者が社会をリードしていくJDD ネットの活動の紹介、あるいは当事者が我々臨床発達心理士に求める専門性という要望に応え、密度の濃い研修会となった。

当事者とその家族について自身の体験を交え、障害者の権利擁護について、これまでの消極的擁護（差別・虐待をなくす、呼称の問題など）から、その人らしい生活のための自立・自己決定の支援を求める“積極的擁護”へ移行することが必要であるという。現在、障害者が選択できる生活の場は家か施設かグループホームのいずれかであり生活も余暇も一緒である。当事者は誰とどこで暮らしたいと考えているのか。氏の息子さん本人は一人暮らしあるいはシェアホームを希望しているが、障害基礎年金と作業所の収入では、家族の支援なしで自立した生活をめざすことは困難であることから、“社会的自立・経済的自立、そして親からの自立”に向けグループホームの設立、就労支援・権利擁護の拡充、あるいは、“ペアレントメンター”(同じ親として仲間の子どもの障害理解や障害受容の支援を行う信頼できる相談役）の養成や支援体制の整備に向けて活動されている。

この度の障害者自立支援法の改正において知的・肢体不自由・精神の三障害に加え、知的障害の有無を問わず発達障害が対象となることが明確化されたが、高次脳機能障害、難病(慢性疾患)は含まれない。氏田氏の参加する障がい者制度改革推進会議では、「総合福祉法」の設立に向け、さらに障害者に対する包括的な支援が検討されている。

指定討論では、千葉市自閉症協会会長の菊池裕美氏より、社会のインクルージョンに向かう流れの中で、今後障害の多様化に対応できるケアができるのかという質問やスーパーケアホームの構想などの話題に広がった。司会兼任の鈴木氏の質問に応え、氏田氏は、臨床発達心理士に求められる専門性として「同じようなニーズをもっているが“達”ではなく一人ひとり違う。人として生きていることが環境・障害で妨げられている。そこを変えて欲しい」と、当事者の意思を尊重することの重要性を強調し、菊池氏は同様に「専門性に加え、専門性にしばられない多様性・柔軟な視点が必要である」と述べた。

制度の改正を含め、今後の新しい動きについて、時間内で参加者とのやりとりが十分に取れなかったことが残念であったが、今までにない当事者・家族の視点から社会を捉えた大変刺激的な研修であった。

（文責　井桁重乃）

＜午後の部：専門職公開研修＞

○日時：2010 年 5 月 29 日（日）13：30～16：30

○テーマ:「乳幼児期の発達障害への気づきと支援－ASD（自閉症スペクトラム障害）の子どもの早期行動特徴について－」

○講師：稲田尚子（(独）国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所　児･思春期精神保健研究部）

○概要：

前半が講義、後半はDVDを見ての実習と解説という形で研修会は実施されました。講義はASDの子どもの早期特徴について、子どもの行動アセスメントの方法について、結果のまとめ方と支援プラン立案のポイントについての３点が中心となりました。まず、3 歳までのASDの子どもはクレーンや常同行動等の独特な行動が出現しやすいこととともに、1 歳半頃までに出現するアイコンタクトや模倣のような対人コミュニケーション行動があまり見られないことに触れ、ターゲットとなる行動を確認しました。次に、自閉症診断観察スケジュール（ADOS）を用いての子どもの行動アセスメントを解説されました。（自閉症診断観察スケジュール（ADOS）とは、標準化された半構造的な遊び場面で自閉症児のコミュニケーションや社会的行動を観察するツールで、日本語版はまだ出版されていません。）

対人コミュニケーション行動を引き出すためには、遊びの中で、最もふさわしい場面を設定し、日ごろなじんでいるおもちゃの種類を選び、一定のやり方で関わる必要があることを繰り返し述べられていました。たとえば、要求の指さしを引き出すには、おやつ場面を設定し、クッキーとクラッカーを食べさせた後、「どっちがほしい」とたずね、おやつに向けて指さしを出させるようにします。ままごとセットを用意し、おやつパーティー場面を設定することで、ふり遊びを促すことができたり、大人が人形に食べ物を食べさせたりするのを見たりして、模倣行動を引き出すこともできます。講義の最後では、ケースを見立てるには、場面設定しての子どもの直接行動観察、子どもの発達検査の結果、保護者面接の結果を総合的に判断する大切さを述べられていました。

後半の実習では、ASDのお子さんに自閉症診断観察スケジュール（ADOS）を実施しているDVDを視聴し、前半の講義を踏まえて、行動観察をまとめ、支援プランを立てました。支援プランの立案では、保護者のニーズ、家庭でできること、地域でできること、3 つの観点から考える必要性があり、専門家は定期的にアセスメントを実施し、支援ニーズや支援プランを見直していくこととともに、地域との連携を図っていくことの重要性について語られていました。

今回は専門職公開研修ということもあり、保健師を中心に様々な職種の方が参加されました。子どもの行動の見るべきポイントが明確に示され、わかりやすかったとの意見を多数いただき、現場での支援にすぐに活かせる研修会であったと思えました。

（文責　早山文悟）

４．総会報告

（１）概要

2011 年 5 月 29 日（日）千葉大学で開催した。2010 年度の活動報告および 2011 年活動計画、役員選出等以下の提案を決定した。

（２）活動報告、活動計画

＜2010 年度活動報告＞

１．総会の実施

規定に基づき、2010 年度の総会を、2010 年 5 月 30 日（日）に千葉大学で開催し、2010 年度の活動計画、予算を決定した。

２．研修会の開催

資格更新研修会を､5 月 30 日(日)､10 月 24 日(日)､11 月 13 日（土)、2 月 13 日(日)に開催した。10 月 24 日は公開シンポジウム､2 月 13 日は専門職公開研修会（対象限定の公開研修会）を実施した。

研修会企画と実施においては「研修委員会」が中心となり、

(A) 育児・保育支援分野研修

今年度も「乳幼児の発達障害への気づきと支援」を年間テーマに活動をすすめた。第１回資格更新研修会では、阿部秀樹氏（臨床発達心理士 SV）による「乳幼児の発達支援に関わる心理士のスキルアップのために」のテーマで、乳幼児期に最も使用される二つの検査について研修を行った。また、第 3 回研修会では、黒澤礼子（子ども家庭支援センター)「発達障害への支援における乳幼児健診の役割」､榊原信子氏（市川市保健センター)「保健センターにおける臨床発達心理士の役割」について専門職公開研修を行った。また､「乳幼児健診検討プロジェクト」の活動として、千葉県内保健所の現状を把握するためにアンケートの実施を準備し発表を予定していたが、今期は実施を見送った。

(B) 特別支援教育分野研修（発達障害児への支援、自閉症スペクトラムへの発達支援）（鈴木先生担当）

(C) 共通テーマ研修（渡邉先生担当）(詳細は別表)

３．広報

ニュースレターを年 3 回発行し、研修予定、ニューズレターの内容を JOCDP 事務局 HP に掲載するための情報提供を行った。また、一般市民、行政、「親の会」などに対する会の広報活動は十分に行うことができなかった。

４．地域情報交換会

11 月 13 日（東総・東上総地区）に「地域情報交換会」を開催した。

計画していた県内におけるブロック毎の活動については、十分に検討できなかった。

５．千葉支部ホームページの開設準備

会員への情報提供と支部の広報活動を目的に、千葉支部ホームページを開設した。内容の充実や管理システムの構築が今後の課題である。

６．地域社会への貢献：行政・親の会などとの連携

資格を今後取得しようとする方々や､行政に対し、臨床発達心理士の資格や活動についての広報活動を積極的に展開した。また、公開シンポジウムや専門職公開研修会を通じて千葉支部の活動を対外的にアピールした。親の会との連携は今年度行なわれなかった。

７．日本臨床発達心理士会への参加・協力

日本臨床発達心理士会幹事会への出席、全国研修会、JDD ネットへの参加・協力、提供等も行った。

また、日本臨床発達心理士会・東日本震災支援対策本部への協力を行った。

＜2011 年度活動計画＞

１．総会の実施

規定に基づき、2011 年度の総会を、2011 年 5 月 29 日（日）に千葉大学で開催します。2011 年度の活動計画、予算を決定いたします。

２．研修会の開催

資格更新研修会（基礎勉強会、事例検討会）を、5 月 29 日(日)、10 月 23 日(日)、2 月 11 日(土)に開催します。

「研修委員会」が中心となり、

(A) 育児・保育支援分野研修

(B) 特別支援教育分野研修（発達障害児への支援、自閉症スペクトラムへの発達支援）

(C) 共通テーマ研修

を設定し、３つの枠組で研修を行っていきます。

(詳細は別表)

３．広報

ニュースレターを年 3 回発行します。また、一般市民､行政､「親の会」などに会の活動を広報します。

４．東日本震災支援活動への協力

平成２３年３月発足の「一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構 日本臨床発達心理士会 東日本震災支援対策本部」による様々な支援活動への協力を積極的に行います。

５．地域情報交換会

今後の千葉県のブロック毎の活動の可能性を探るために、いくつかのブロックでの情報交換会、勉強会（文献抄読会、事例検討会など）を実施します。

６．千葉支部ホームページの管理

会員への情報提供と支部の広報活動を目的に、コンテンツを検討し、充実したホームページ管理を目指します。

７．会員間の情報交換についての検討

メーリングリストの登録およびメールマガジンの配信等、情報交換の方法について検討します。

８．地域社会への貢献：行政・親の会などとの連携

行政への情報提供、行政との情報交換、また親の会、当事者との交流をとおして、地域社会への貢献を積極的に行います。

９．日本臨床発達心理士会への参加・協力

千葉支部では、日本臨床発達心理士会幹事会への出席、全国研修会への参加・協力、提供等なども行います。

（３）会計報告

資料１・２を参照してください。

（４）2011 年度役員紹介

支部長　長崎勤（筑波大学）
副支部長　鈴木彰典（千葉県立富里特別支援学校）
事務局長　中村晋（筑波大学附属大塚特別支援学校）
役員
　井桁重乃（千葉県教育庁葛南教育事務所）
　上原素子（千葉県立銚子特別支援学校）
　太田律子（東京医薬専門学校）
　大槻美智子（東庄町立笹川小学校）
　黒澤礼子（江戸川区子ども家庭支援センター・法政大学）
　小島明子（東金市簡易マザーズホーム）
　齋藤順子（成田市健康こども部健康増進課）
　鶴見春美（香取市立小見川南小学校）
　中澤潤（千葉大学）
　早山文悟（松戸市こども発達センター）
　堀　彰人（八千代市教育委員会）
　渡邉正人（千葉県立千葉盲学校）
　渡邉亮一（いすみ市立浪花小学校）
（五十音順）

５．地域情報交換会の報告とお知らせ

＜旭市・香取市周辺地区情報交換会の報告と御案内＞

≪研修の報告≫

○**日時**：平成 23 年 7 月 2 日（土）13：30～16：30
○**会場**：匝瑳市八日市場公民館
○**講師**：渡辺芳江（香取市立府馬小学校教諭・臨床発達心理士）
○**テーマ**：「関わる人たちの気づきから始まる発音や話し方の支援」
○**内容**：巡回によることばの通級指導担当である渡辺先生から構音障害や吃音障害への気づきと指導について具体的な話を聞くことができました。発音指導は勿論、本人が障害を受容し改善・克服できるようにするための支援と保護者や学級担任への支援を重視しておられることがよくわかりました。講演のあと、障害の早期発見、早期指導ということが話題となり、どんぐり教室（幼児のことばの教室）との連携について会員間でさかんに意見が交換されました。

≪次回の研修について　お知らせ≫

○**日時**：平成 23 年 11 月 20 日（日）13：30～16：30
○**会場**：匝瑳市八日市場公民館
○**講師**：松川節理子（香取市・東庄町保健センター言語相談員・臨床発達心理士）
○**テーマ**：「乳幼児の地域支援―どんぐり教室の活動と問題について（未定）―」

６．私の職場紹介

實川慎子（昭和学院短期大学）

私の職場は、市川市（最寄駅は JR 本八幡駅・京成線八幡駅）にある昭和学院短期大学です。学内には、子育て支援のための「昭和学院もこもこ・こどもセンター」があり、市川市から地域子育て支援センターとして業務委託を受けています。市川市に住所を有する子育て親子を対象とし、大学近隣に住む未就園の親子が多く利用しています。「もこもこ」という名前は、「もこ　もこもこ」（谷川俊太郎/作・元永定正/絵　1995 文研出版）という絵本からとっています。そこには絵本から感じられるような、筋書きのない面白さ、どこかふんわりゆったりとした温かい雰囲気を大切にしたいとの願いが込められています。開設時間は、月曜～金曜の 10：00～12：00 と 13：00～16：00 です。事業内容は、子育て親子の交流の機会の提供と交流の促進、相談及び援助、関連情報の提供、講習会の開催のほか、公園等に出向いて親子交流や子育てサークルの援助等も行っています。とくに大学内に設置されている特徴を生かして、人間生活学科こども発達専攻（保育者養成）の大学教員（私の他に、臨床心理士１名、社会福祉士１名）が、毎月１回子育て相談事業を行っています。

相談内容として多く寄せられるのは、睡眠や離乳食などの基本的生活習慣に関する相談や、言葉や社会性などの発育・発達に関する相談、予防接種に関する相談など多様です。子育てしていて気になることを気軽に尋ねられる場になっていることがうかがわれます。より専門的な対応が求められる相談は、保健センターなどと連携を図っています。

このほかに「昭和学院もこもこ・こどもセンター」では、保育士や幼稚園教諭を目指す学生が、授業の一環として子育て支援の実習を行っています。最初は緊張していた学生も次第に笑顔でかかわれるようになり、子育て支援の場で展開される一つ一つの活動の意味について深く考えるようになっていきます。また親子にとっては、初々しくも真剣な学生の手遊びや手づくりおもちゃ制作などが楽しみの一つとなっているようです。

７． 各支部の研修会案内

（１）栃木支部

〇**日時：**2011 年 10 月 22 日(土) 13:30～16:30
〇**会場：**とちぎ青少年センター第１研修室
〇**テーマ：**「脳科学から見た発達障害～教育的支援の根拠を求めて～」
〇**講師：**松本秀彦氏（作新学院大学准教授）

□□

８．事務局だより

＜東日本大震災支援について＞

臨床発達心理士会・東日本大震災支援対策本部では、現地の士会会員と情報交換を多ないながら具体的支援についての検討をしております。現在は、JDD ネットと連携した支援が具体化し、福島県相馬市への専門家派遣を決定いたしました。既に皆様へはご案内しておりますが是非ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。また、１日ボランティアについては、埼玉支部が中心となって双葉町民が避難しております騎西地区へのボランティアが現在も行われています。

今後も被災から５ヶ月が経過した現地のニーズに応じた支援を検討していきますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜第７回全国大会について＞

大会事務局では、被災地会員の大会参加費用軽減を決定いたしました。千葉県も旭市をはじめ、この度の災害で被害を受けたことを鑑み、大会当日参加費１万３千円のところ１万円で参加できることになりました。受付の際に、千葉支部会員であることをお伝え下さい。

＜研修会でポイントを取得するには＞今年度資格を取得された会員の皆様へ

〇「ID カード」と「資格更新研修会参加記録ノート」をご持参下さい。予め、記録ノートの該当ページに、研修会タイトル・受講年月日・ポイント数を記入しておきます。研修会が始まる前に、会場入口の受付にノートの提出をお願いします。ノートは研修会終了後に返却しますので、忘れずに受け取ってお帰りください。
〇次の場合には、更新ポイントをお出しできませんので、ご注意ください。

- 記録ノートを忘れた場合
- 記録ノートに写真が貼られておらず、ID カードも忘れてしまい、本人確認ができない場合
- 研修会開始後、**１０分以上の遅刻**、あるいはノートを提出し忘れた場合

〇千葉支部資格更新研修会への参加申し込みは、公開シンポジウム等を除いて、その必要は有りません。他支部の研修会等については、その案内に従って下さい。

★日本臨床発達心理士会千葉支部　〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1214-3 中村晋方
FAX：047-482-6015　e-mail： nshin@otsuka-s.tsukuba.ac.jp

□□

（千葉支部　ＮＬ編集担当　早山文悟　上原素子）

＜更新ノート用ラベル＞　コピーをしてご使用ください。

	研修会名	年月日	ポイント数
午前	**2011 年度日本臨床発達心理士会 千葉支部第 2 回研修会 専門研修** 「乳幼児期の認知発達と発達障害」	2011 年 10 月 23 日	1
午後	**2011 年度日本臨床発達心理士会 千葉支部第 2 回研修会 公開研修会** 「災害時・非常時における支援者の役割と有効な支援について」	2011 年 10 月 23 日	1